演題

「定められた条件下で求められるデンチャーデザインとラボワーク」

大阪府歯科技工士会　北東支部
日本歯科技工士会認定講師
小山邦宏／Kunihiro Koyama

＊抄録
近年、歯科界におけるデジタル技術やそれに付随するマテリアルの進化により日常臨床のパーシャルデンチャー製作で分部的にでもデジタルが導入されるコンビネーションワークが当たり前の時代となった。しかし概念・技術の根本を外す事は出来ず、その欠損補綴の目的である歯列弓の保全、生理的機能の回復、残存歯質の保善、審美性改善を計るうえでいかに咀嚼ユニット（人工歯と義歯床から構成される）を安定させるか、またそれを実現するのに必要な前処置をおこない、残存歯と咀嚼ユニットをフレームワークで連結し固定（二次固定）した Rigid Type のパーシャルデンチャーを考え製作するのである。しかしパーシャルデンチャーを製作する上で患者個々の口腔内の限られた条件下で行わなくてはならないのが臨床である。多くは妥協的に対応せざるを得ないと考えらでてしまう場合も多いのも事実であるが、口腔内のみならず身体的な部分をも考慮し、その与えられた条件下でも最大限に欠損補綴の目的を達成するためにチェアサイドとラボサイドの連携による創意工夫が必要と考える。今回の講演では臨床例を通し、いかにチェアサイドと協議し製作に結びつけたのかを解説したいと思う。